

## 2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 大津市立志賀中学校 ] 担当教諭名 [ 堤 祥晃 ] (1年1組~6組 184名 美術部11名)  
 交流相手国 [ アメリカ ]  
 海外学校名 [ Julie Billiard School ] 担当教諭名 [ Diane Hughes ]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	部活動	自己紹介、テーマ学習	10
	部活動	壁画制作	16
	美術	日本の文化を紹介しよう!	12

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	What represents our countries (私たちの国を表すもの)
絵に込めたメッセージ	日本的な美しさや独自の文化がアメリカの人にも伝わるように、描くものや構図、配色を工夫しました。完成作品は、お互いの国の雰囲気が良く表されたものに仕上がりました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
生徒は、交流先がアメリカということで、当初より親近感を持って取り組めた。作品制作の他に、ハロウィンカードなどメッセージカードのやり取りも行い、共同学習、共同制作を通して、海外との交流を楽しむことができ、異文化理解にもつながった。また、英語での交流を通して、活きた語学学習ができた。	3年目なのでスムーズにできた部分もあったが、やはり生徒も教師も英語力が低く手間取ることが多かった。また、お互いに学校行事や長期休業等で連絡を取り合うことが難しく、スケジュール通りに進めることができなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
昨年度も取り組んでいた生徒が、今年はもっと頑張りたいと言ってきたり、自分たちで取り組みを考えたりと、どんどん主体的に関われるようになってきた。また、国際交流に対する抵抗感が薄れ、楽しめるようになった。生徒は、来年度もまた取り組みたいという思いを強く持ったようです。	英語でのやりとりに慣れ、抵抗感が薄まったこともあり、相手国とのコミュニケーションを楽しめるようになった。また、取り組みを通じて生徒が「自分たちで翻訳してみたい、調べてみたい」と主体的に関わっていく姿を見て、体験的な学習の大切さをあらためて実感できた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	英語で自己紹介を考え、撮影した自分の写真とともにフォーラムにアップする。	撮影、翻訳など楽しみながら取り組んでいた。各自が英文をALTにチェックしてもらいに行ったが、それなりにコミュニケーションをとることができた。	部活動
テーマ学習	10月	日本の文化について、英語で紹介文を作り、フォーラムにアップする。アメリカの文化や自然を調べる。ハロウィンカードを描く。	自分達でそれぞれ紹介したい日本の文化を見つけ、楽しく取り組んでいた。ハロウィンカードの政策では、アメリカと日本のハロウィンの違いを知り、興味を持って取り組めた。	部活動
構図決定	11月	テーマを決め構図について意見交換をする。	アメリカは歴史的に自分たちの国のしっかりした文化がないとわかり、テーマ当初のを予定から変更した。テーマや構図を決める際には、色々と意見を出してしっかりと話し合うことができた。	部活動
壁画制作	12月	美術部員全員が1人1点下絵を考え、投票で原画を決める。少し修正を加えた後、原画を拡大して描き、着色する。1年生全員がアメリカへ年賀状を書く	投票の後、選ばれた原案を元にみんなが意見を出し合ってデザインを修正していた。拡大して描く、塗る作業では分担しながら協力し、楽しんで取り組めた。	部活動 美術科
鑑賞・振り返り	3月	全員で完成した作品を囲んで鑑賞会を行う。全校集会で完成作品を紹介する	作品の完成度の高さに満足している様子であった。描かれている物について、生徒同士で色々と会話をしていた。	部活動 全校集会

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	自国側の壁画を描く際に、描くもの、背景、配色等を工夫し、『和風』という意識を持って描いていた。
異文化の理解	A	5	アメリカは移民の国なので、様々な文化が混じっていることを知り、日本との違いを強く意識していた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	C	3	英語は不得意な生徒が多く、翻訳ソフトや英語科教師、ALTなどの助けを借りながら、それなりに楽しんで取り組んでいた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	時間的に厳しいこともあり、じっくり調べたり、まとめたりすることができなかった。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	制作を通して部員同士の交流が深まった。相手国とは、メッセージカードのやり取り等、お互いに交流を楽しめた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	壁画の制作や校内展示物の製作では、役割分担をして、それぞれが自分の役割をしっかりと果たすことができた。
学習を追究する意欲	A	4	美術部、美術科両方とも、ほとんどの生徒は意欲的、主体的に取り組んでいた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	『日本』のイメージが伝わるように、構図や配色を工夫しながら、特に『和風』を意識した作品に仕上げることができた。
作品を鑑賞する力	B	4	描かれている物や色彩からアメリカの特徴を感じ、何でこれを描いたのかな?など会話しながら作品を鑑賞していた。